

第12講 『月経の形成機序』

：月経は「天癸」「臟腑」「気血」「経絡」の働きが協調し「女子胞」に作用して形成されると考えられている。

1. 天癸

：天癸とは腎精が一定量溜まると、人体内で自然に生産される液状物質で、性器官の発育と成熟を促し、生殖能力を備えさせる働きを持つ。

《素問 上古天真論》

二七而天癸至、……月事以時下、故有子
七七……天癸竭、地道不通、故形壞而無子也

[訳文] 二七（14歳）で天癸が至り、初潮が起こり妊娠が可能になる。
七七（49歳）で天癸が竭き、閉経し妊娠が不能になる。

2. 気血

：代謝の中で余剰になった気血が月経の主要成分ある。また、気血は臟腑の働きにより化生される。

* 血は月経形成の物質的基礎であり、気は血（月経）の原動力である。

※ 気は血の帥………運行の原動力
※ 血は気の母………担体

⇒ 気血の働きが調和し正常な月経が形成される。

3. 臟腑

：特に[腎][肝][脾(胃)]との関係が深い。

(1) 腎

* [藏精]：精は血に転化し、また血は精に転化する。[精血同源]
⇒ 月経形成の物質的基礎。
⇒ また、腎精は天癸の形成に影響する。

(2) 肝

- * [蔵血] : 血を貯蔵し、必要に応じ人体外周部へ分配する。
その他の血は感に貯蔵されるが、余剰の血が女性の場合血海に下注し月経の基礎となる。
- * [疏泄] : 疏泄により血はスムーズに運行し、月経も流暢となる。

疏泄の亢進 → 月経前期 或いは 月経過多
疏泄の低下 → 気鬱気滞 → 月経後期、月経過少、痛経

(3) 脾

- * [運化] : 気血生成の基礎である。
- * [統血] : 血の脈中での運行を支持し、出血を防ぐ。
- * [昇清] : 気機の一つ「昇」を主り、不必要な下降を防ぐ。

統血・昇清作用の低下→月経過多、月経前期、経期延長、崩漏 等

(4) 胃

: 足の陽明胃経は下降して「気衝穴」で衝脈と交會し、衝脈に水穀の精（血）を供給する。

- * その他に心主血脈、肺主気などの働きにより血の運動が維持されているため、月経の生理活動にも関係する。

4. 経絡

: 経絡は臓腑と他の組織・器管を結びそれぞれの働きを一つの整体として結びつけ、気血を運行し全身を栄養している。

- * 月経の形成には特に奇経八脈中の衝・任・督・帯脈が深く関与しており、その生理作用は十二経脈の気血の蓄溢調節である。

(1) 衝脈

: 衝脈は気衝穴で胃経と交會し、腎経に沿って腹部を上行する。そのため先天の精・後天の精の供給を受け、十二経脈を養い、その活動を助ける [十二経の海・五臓六腑の海]。また「血海」とも呼ばれ五臓六腑の血が集まり、衝脈が盛んであれば月経が周期的に来るといわれている。

(2) 任脈

：任脈は全身の陰経が集まるとされる・中穴をその流注に持ち、全身の陰経を主る「**陰経の海**」。また精血津液等 陰に属する物質は全て任脈に属する。任脈は妊娠の根本或いは胞中に起こることから、任脈の気が通れば月経が生じ妊娠が可能になるといわれる。

* 衝・任・督脈はすべて胞中に起こる。

(3) 督脈

：督脈は「**陽経の海**」と呼ばれ、全身の陽脈を主る。任脈と協調し、全身陰・陽脈を調整し陰陽の平衡を保つことにより正常な月経を維持する。

(4) 帶脈

：帶脈は諸経を束ね、経脈気血の運行を保持する。

5. 胞宮（女子胞）

：胞宮は奇恒の府で、その形態は中空性器管で腑に似るが、働きは精気を蔵す臓に似ている。また蔵と瀉の働きを併せ持つ特殊な臓腑である。

{ 蔵 : 月経後～月経前、妊娠期
瀉 : 月経期、分娩時

* 月経の形成は臓腑の働きにより生成された気血が任・衝脈等の奇経を通じ胞中に一定量溜まると排泄され完了する。正常な周期の調整は衝・任脈・臓腑・気血の関係・連絡による。

《 月経形成機序 》

